平成31(2019)年
2月1日
第213号 毎月発行
編集　公民館だより編集室
発行　西東京市公民館
毎月第4月曜日は休館日です

西東京市 公民館だより

今月号の内容

2面…雇用・労働問題講座、子どもの課題を考える講座、ライフスタイル講座、映画会　ほか
3面…市内で富士山が見えるところ　ほか

柳沢公民館　柳沢1-15-1　☎042・464・8211　kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館　南町5-6-11　☎042・461・1170　tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館　芝久保町5-4-48　☎042・461・9825　shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館　谷戸町1-17-2　☎042・421・3855　yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館　ひばりが丘2-3-4　☎042・424・3011　hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館　東町3-14-30　☎042・421・1125　ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

保谷柳沢児童館（柳沢２－６－11）の隣にあるむくのき公園で、２０年以上前から行われている地域のおまつり、「むくのきまつり」を取材しました。

むくのきまつり

地域の中に顔が見える関係を

ステージイベント

地域がひとつに溶けあう日

毎年秋に行われるむくのきまつり。第21回目の昨年は、10月21日（日）に開催されました。

内容は盛りだくさんで、スポーツ広場では子どもも大人も参加するステージイベントが行われ、保谷第二小学校と東伏見小学校の先生方のバンドも出演しました。地域住民が教えてくれるけん玉・ベーゴマ・お手玉などの「あそびコーナー」もありました。児童館の軒下や木に囲まれた起伏のある広場には、やきそば・フランクフルト・豚汁・ヨーヨーつりなどの大人実行委員会のお店、わなげやスーパーボールすくいなどの学童クラブ父母会のお店、子ども実行委員会のソースせんべい・くじびき・のみもの・しゃてきの４つのお店が並びました。当日は、乳幼児から高齢者まで、千人を超える人が参加しました。

むくのきまつりでは、子どもたちは、事前に200円の「おまつり券」を購入します。この券で、子ども実行委員会と学童クラブ父母会のお店合わせて８つの中から５つ選んで回ることができます。「子どもたちがお金をあまり使わないで遊ぶことができるように」という思いから生まれたしくみで、21年間、金額に変更はありません。

みんなでつくるおまつり

むくのきまつりは、小学校３～６年生で構成される子ども実行委員会と、保谷第二小・東伏見小・柳沢中のＰＴＡ、育成会、「ホニホニおやじの会」、「ふれあいのまちづくり住民懇談会ほにほに」などの地域の関係団体で構成される大人実行委員会が、企画・準備・運営等を行います。

異年齢の子どもたちが交流しながら主体的にまつりをつくりあげ、達成感を得てほしいという児童館の考えから、子ども実行委員会がつくられています。

実行委員会の活動は７月から始まり、大人実行委員会は５回、子ども実行委員会は６回、開催されました。

地域の大人のおもいがかたちに

むくのきまつりが始まったのは、平成10（１９９８）年。むくのき公園が開園した年で、保谷柳沢児童館の開館（平成６年）から４年経った時でした。「居心地のよい地域、子どもたちが生き生きと遊べる地域にしたい」と考えた父親たちの働きかけに、地域に根ざしたおまつりを行いたいと考えていた児童館が応えて、「むくのきこどもまつり」としてスタートしました。のちに、地域の大人と子どもが協力して共に楽しむおまつりという趣旨を表す「むくのきまつり」という名称に変わりました。

子どもを見守る地域

市内の他の児童館でも実行委員会方式でおまつりが行われていますが、地域住民が主役で、児童館は地域住民の取り組みを子どもの健全育成という側面から支援するという関係が、むくのきまつりの特色の一つです。

当初から、母親だけでなく、父親の協力もあったことも他ではあまり見られないことです。この地域の父親たちは、むくのきまつりだけでなく、小学校の運動会や見回りにも協力するようになり、平成26年には、「ホニホニおやじの会」（保谷第二小）ができました。21年間ずっとかかわり続けてきた人がいて、さらに、次々と若い世代が加わり、地域の中で担い手が継承されてきているのです。

まつりの日、大人たちが子どもたちに声をかける姿を多く見かけました。児童館職員は、むくのきまつりについて話す中で、「今、大人がどれだけ子どもに目を向けられるかが問われている。周囲の大人が、子どもに目を向けている地域は、子どもにとっていい地域」と言いました。むくのきまつりは、そのような地域をつくる一つの力になっていると感じました。

子ども実行委員会の店

ホニホニおやじの会の店

子どもたちに感想を聞きました

・むくのきまつりについて

「お店がいっぱいあって楽しい」

「けん玉やベーゴマをしたり、ショーを見たり、みんなと楽しく遊べるからいい」

・実行委員について

「お店に人がたくさん並んで大変だったけれど、やりがいがあって楽しかった」

「お店を回る楽しさと、自分がお店でソースせんべいを売る楽しさの両方を体験できるところがいい」

第21回実行委員長の辻未来子（つじみきこ）さんにお話を伺いました

子どもたちにとって、おまつりは楽しい場。親になった時、我が子も連れて行きたいと思ってもらえるようなおまつりにしたいと思います。20年以上続いているのですから、実際にそういう方もいらっしゃるのではないでしょうか。

働いている人も多く、日中、地域にいる親は少ないと思います。昼間、地域の方たちが子どもたちを見守ってくださったら嬉しいですし、地域に我が子のことを知っている人がいて、成長を支えていただけたら…と思います。私も、地域の子どもたちを見守っていきたいと思っています。

むくのきまつりを立ち上げたおひとりで、21年間、かかわり続けてきた嶋田安民（しまだやすたみ）さんにお話を伺いました

この地域にはおまつりがないので、子どもも大人も楽しめるおまつりをしようと、当時の保谷柳沢児童館の館長と話しあい、始めました。

顔の見える地域をつくりたいと思い、ずっと活動してきました。むくのきまつりを始めて21年、この地域はそういう地域になっていると感じています。

「ホニホニおやじの会」には、在校生の親だけでなく、自分の子どもはもう保谷第二小を卒業した親も参加していて、どんど焼きややきいも大会などの地域の行事にも協力しています。

むくのきまつりが人と人を結びつけ、地域のつながりをつくってきたのではないかと思います。

写真で見る　いまむかし

保谷駅南口の商店街（東町商栄会）

保谷駅南口地区の市施行の再開発事業は平成16年から具体的な取り組みが開始され、平成24年３月に完了しました。ソレイユ保谷ビルは、平成22年10月に完成しました。

保谷駅南口の商店街（第5回保谷市民まつりのパレード）
昭和58（1983）年撮影
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵

現在の東町商店街
撮影：水口トミオ（保谷町在住）

声の「公民館だより」をお届けしています。知り合いで希望される方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館（電話042-421-4545）へお問い合わせください。